福祉サービス第三者評価結果報告書【令和3年度】

2022 年　3 月　15 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人　東京都福祉保健財団理事長　殿

〒　156-0044

所在地　東京都世田谷区赤堤1-10-23　三井ハイム102

評価機関名　合同会社フェアリンク

認証評価機関番号　機構 12 ― 213

電話番号　03-6379-1449

代表者氏名　井上 浩之　印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号		評価者氏名	担当分野	修了者番号
	①	井上 浩之	福祉、経営	H0201050
	②	湊　岳美	福祉	H0801018
	③	田鹿　勉	経営	H1301026
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	障害児多機能型事業所			□ 食事を対象にする
評価対象事業所名称	KIZUNA柴崎駅前		指定番号	1354200444
事業所連絡先	〒	182-0007		
	所在地	東京都調布市菊野台1-5-1　倉田ビル2F		
	TEL	042-444-0045		
事業所代表者氏名	髙梨 玲依			
契約日	2021 年　11 月　1 日			
利用者調査票配付日（実施日）	2021 年　11 月　22 日			
利用者調査結果報告日	2022 年　1 月　11 日			
自己評価の調査票配付日	2021 年　11 月　19 日			
自己評価結果報告日	2022 年　1 月　11 日			
訪問調査日	2022 年　1 月　17 日			
評価合議日	2022 年　2 月　11 日			
コメント（利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入）	利用者調査の一環として、担当評価者が一定時間、事業所に滞在し、実際のサービス提供場面における子どもの室内活動の様子等の観察をおこなった。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、
- ◉ 機構が定める部分を公表することに同意します。
- ○ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- ○ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2022 年　3 月　7 日

事業者代表者氏名　代表理事　青木 伸二郎　印

〔事業者の理念・方針、期待する職員像：障害児多機能型事業所〕　令和3年度

《事業所名：KIZUNA柴崎駅前》

1	**理念・方針 （関連　カテゴリー1　リーダーシップと意思決定）**
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、 特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連　カテゴリー1　リーダーシップと意思決定）
	1)常に妥協しないプロフェッショナルな集団であり続け、希望ある未来を創り上げていく（理念） 2)小さなことでも誠意をもって真摯に取り組める人間になろう（行動規範） 3)企業の利益だけを優先するのではなく、社会の必要性を判断し行動しよう（行動規範） 4)上司に従順であるのではなく、物事の真実、正しいものを見極め行動しよう（行動規範） 5)「ありがとう」の言葉とともに、たくさんの人々を笑顔にしていくこと（ミッション）
2	**期待する職員像 （関連　カテゴリー5　職員と組織の能力向上）**
	（1）職員に求めている人材像や役割
	・素直であること ・ポジティブであること ・勉強熱心であること ・感謝の気持ちを持つこと ・チームでの役割を認識し、人の嫌がる仕事、地味な仕事こそ、積極的に行えること
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）
	私たちは、これからたくさんの人にお会いしていきます。私たちが大切にするのは、相手の立場に立って思いやる気持ち、一人ひとりができることを精いっぱい行い、そして自分の行動に責任をもち、相手を勇気づけてあげること。いつか「ありがとう」の言葉とともに、たくさんの人々を笑顔にしていくことが、私たちの使命であると考えています。

《事業所名：KIZUNA柴崎駅前》

調査対象	調査開始時点での登録者のうち、利用実績のある保護者全員。ただし対象は世帯とし、複数の子どもが通っている場合は年齢が最も低い子どもに対するサービスについて回答を求めた。
調査方法	書面による無記名式のアンケート調査を実施。共通評価項目に対し「はい」「どちらと言えない」「いいえ」「非該当・わからない」の4つの選択肢を用意。依頼状、調査票及び専用の返信用封筒を事業所経由で保護者に郵送し、記入後、評価機関に直接返送してもらった。

利用者総数	18
利用者家族総数（世帯）	17

	アンケート	聞き取り	計
共通評価項目による調査対象者数	17		17
共通評価項目による調査の有効回答者数	12		12
利用者家族総数に対する回答者割合（%）	70.6	0.0	70.6

利用者調査全体のコメント

共通評価項目では、肯定的な回答（「はい」）の割合が8割以上に達した項目が16問中11問を占め、中でも問8(職員の接遇)、問13(個別支援計画への要望等の反映)、問14(支援に関する明瞭な説明）では全員の回答者が、問1(子どもの身体機能・健康の増進)、問2（興味・関心に沿った活動）、問5(保護者との情報共有)、問7(共有スペースの清潔・整頓)、問11(子どもの気持ちの尊重)では1人を除く全員が「はい」と回答している。一方、「どちらとも言えない」と「いいえ」の回答を合わせた割合が最も高かったのは問6(家族に対する精神的なサポート)と問16(外部の苦情相談窓口の明示)で、それぞれ25%に上っている。共通評価項目に加え、総合的な感想として事業所のサービスに対する満足度を5段階の選択肢を示して尋ねたところ、最上位の「大変満足」が12人中9人（75%）、以下、「満足」1人（約8%）、「どちらとも言えない」1人で、「不満」、「大変不満」の回答はなかった。また、利用者調査の一環として、担当評価者2名が療育場面の観察を行った。手厚い職員体制のもと、遊びの要素を取り入れた1コマ1時間の運動療法を子どもが楽しむ様子が確認できた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答非該当
1. 事業所に通うことが、子どもの身体の機能や健康の維持・促進の役に立っているか	11	0	0	1
実際のアンケート調査票の質問文（以下、Q）：事業所に通うことが、お子さんの身体機能や健康状態に良い影響を与えていると思いますか				
2. 事業所での活動は、子どもが興味や関心を持てるものになっているか	11	1	0	0
Q：事業所での活動は、お子さんが興味や関心を持てるものになっていると思いますか				

3. 事業所に通うことが、子どもの情緒面での発達（感情のコントロールを身につける等）の役に立っているか	10	1	0	1
Q：事業所に通うことが、お子さんの情緒面での発達（感情のコントロールを身につける等）の役に立っていると思いますか				
4. 事業所に通うことで、子どもに社会性（人と人との関わり合いやルール等）が身についているか	10	1	0	1
Q：事業所に通うことで、お子さんに社会性（人と人との関わり合いやルール等）が身についてきたと思いますか				
5. 子どもの様子や支援内容（体調変化時の対応含む）について、事業所と情報共有できているか	11	1	0	0
Q：お子さんの様子や、支援の内容（体調変化時の対応含む）について、事業所と情報共有ができていますか				
6. 家族に対する精神的なサポート（子育てに関する悩み相談や進路相談、家族間交流の機会の提供等）は役に立っているか	6	2	1	3
Q：ご家族に対する精神的なサポート（子育てに関する悩みや進路の相談、家族間交流の機会の提供等）は役に立っていると思いますか				
7. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	11	1	0	0
Q：事業所の生活スペースは清潔で整理された空間になっていると思いますか				
8. 職員の接遇・態度は適切か	12	0	0	0
Q：職員の言葉遣いや態度、身だしなみなどは適切だと思いますか（職員としてふさわしいと思いますか）				
9. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	7	0	0	5
Q：お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの職員の対応は信頼できますか				

10. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	5	0	0	7
Q：子ども同士のトラブルやいじめ等があった場合の職員の対応は信頼できますか				
11. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	11	1	0	0
Q：職員はお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれていると思いますか				
12. 子どものプライバシーは守られているか	10	2	0	0
Q：お子さんやご家族のプライバシー（他の人に見られたくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこと）を職員は守ってくれていると思いますか				
13. 個別の計画作成時に、子どもや家族の状況や要望を聞かれているか	12	0	0	0
Q：お子さんの支援に関する計画を作成したり見直しをする際に、事業所はお子さんやご家族の状況や要望を聞いてくれますか				
14. サービス内容や計画に関する職員の説明はわかりやすいか	12	0	0	0
Q：お子さんに対する支援の計画やサービス内容など、事業所での生活についての職員の説明は、わかりやすいと思いますか				
15. 利用者の不満や要望は対応されているか	9	0	0	3
Q：事業所に対して不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員はきちんと対応してくれていると思いますか				
16. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	5	0	3	4
Q：事業所の利用に関して何か困ったことがあったときに、外部の窓口（役所や第三者委員など）にも相談できることを職員はわかりやすく伝えてくれましたか				

《事業所名： KIZUNA柴崎駅前》

調査対象	対象は調査開始時点の登録者のうち利用実績のある利用者全員。回答者31人の内訳は、利用者本人による回答が5人(約16%)、本人が家族と相談しながらの回答が5人、家族が本人の気持ちを推察しての回答が15人(約48%)、その他1人、無回答5人。
調査方法	事業所との協議により、書面による無記名式のアンケート調査を実施した。アンケートでは、依頼状、調査票及び専用の返信用封筒を事業所経由で保護者に配付し、記入後、評価機関に直接返送してもらった。

利用者総数 42

	アンケート	聞き取り	計
共通評価項目による調査対象者数	41		41
共通評価項目による調査の有効回答者数	31		31
利用者総数に対する回答者割合（%）	73.8	0.0	73.8

利用者調査全体のコメント

共通評価項目では、肯定的な回答（「はい」）の割合が8割以上に達した項目が13問中9問を占め、中でも問5(職員の接遇)、問8(子どもの気持ちの尊重)では回答者の全員が、また、問7(利用者同士のトラブルの解決)、問12(苦情や要望への対応)では1人を除く全員が「はい」と回答している。一方、「どちらとも言えない」と「いいえ」の回答を合わせた割合が最も高かったのは問13(外部の苦情相談窓口の案内)で約23%、次いで、問2(他の利用者との関わりの楽しさ)で約19%に上っている。共通評価項目に加え、総合的な感想として事業所のサービスに対する満足度を5段階の選択肢を示して尋ねたところ、最上位の「とても良い」が23人（約74%）、以下、「少し良い」4人（約13%）、「どちらとも言えない」2人（約7%）で、「あまり良くない」、「ぜんぜん良くない」の回答はなかった(無回答2人)。利用者の満足度は概ね高い水準にあることが推測される。また、利用者調査の一環として、担当評価者2名が実際の療育場面の観察を行った。手厚い職員体制のもと、遊びの要素を取り入れた1コマ1時間の運動療法を子どもたちが楽しむ様子が確認できた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答非該当
1. 事業所での活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	28	3	0	0
アンケート調査票の質問文（実際は漢字にふりがなを付している。以下、Qと表記）:「KIZUNA柴崎駅前」でのかつどうやあそびは、おもしろいですか（自分に合っていると思いますか）				
2. 事業所での仲間との関わりは楽しいか	24	5	1	1
Q:「KIZUNA柴崎駅前」で、ほかの利用者といっしょにすごす時間は楽しいですか				

3. 職員は、話し相手や、相談相手になってくれるか	29	1	0	1
Q：職員はあなたに話しかけたり、あなたの相談にのってくれたりしますか				
4. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	29	1	0	1
Q：「KIZUNA柴崎駅前」では、食事をする場所やトイレなどはいつもきれいで、かたづいていると思いますか				
5. 職員の接遇・態度は適切か	31	0	0	0
Q：職員のことばづかいやたいど、身だしなみなどは、きちんとしていると思いますか				
6. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	24	3	0	4
Q：あなたがけがをしたり、病気などでぐあいが悪くなったときに、職員に安心してまかせることができますか				
7. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	30	0	0	1
Q：ほかの利用者との間のけんかや、子ども同士のいじめなどがあった場合、職員はきちんとかいけつしてくれると思いますか				
8. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	31	0	0	0
Q：あなたは、職員があなたの気持ちを大切にしてくれていると思いますか				
9. 子どものプライバシーは守られているか	23	2	0	6
Q：あなたがほかの人に知られたくないひみつのことを職員はないしょにしてくれていると思いますか				

10. 個別の計画作成時に、子どもや家族の状況や要望を聞かれているか	28	0	0	3
Q：「KIZUNA柴崎駅前」での生活で、あなたが目標とすることを決めるときに、職員はあなたの気持ちや要望を聞いてくれますか				
11. サービス内容や計画に関する職員の説明はわかりやすいか	25	3	0	3
Q：職員は、あなたに対して、どのような支援や手助けをしてくれるのか、わかりやすく説明してくれましたか				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	30	0	0	1
Q：あなたが「もっとこういうふうにしてほしい」とか、「こういうことはいやだから、やめてほしい」と思ったことを職員に伝えたときに、職員はあなたの話しをきちんと聞いて、考えてくれると思いますか				
13. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	14	3	4	10
Q：「KIZUNA柴崎駅前」のことで何かこまったことがあったときに、職員以外の人（役所や外部の相談係の人など）にも話しができることをわかりやすく教えてくれましたか				

Ⅰ 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7）

No.	共通評価項目
1	カテゴリー1 リーダーシップと意思決定

サブカテゴリー1（1-1）

事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7／7

評価項目1
事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を周知している

評点（○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当

評価項目2
経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている

評点（○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○ 非該当

評価項目3
重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○ 非該当

カテゴリー1の講評

法人理念に基づく行動指針を職員に周知するともに療育の基本方針を保護者に伝えている

法人は、遊びの要素を取り入れた運動療法を通じて、子どもたちが楽しみながら運動機能や社会性を高め、子ども一人ひとりの自信と可能性を広げることを目指している。法人が掲げる理念、行動規範のもと、事業所では子どもに対する望ましい向き合い方を具体的かつ簡潔に書面にまとめ、事務室内に掲示して職員に周知している。また、保護者に対して、法人のホームページや利用契約時の重要事項説明において療育の基本方針を伝えている他、利用時のフィードバックや個別支援計画の説明の折に、療育に対する基本的な考え方を伝えている。

経営層を中心にビジネスモデルの確立とニーズを踏まえた着実な事業展開を図っている

一日10名の利用定員を設定し、1コマ1時間の単位で子どもの年齢や支援ニーズに応じた2～4名のクラスを編成のうえ、運動療法を中心とした療育を提供している。送迎や食事の提供はおこなっておらず、療育に人的資源を集中することで手厚い人員配置を実現している。保護者が療育の様子を室外からブラインド越しに座って観察できるスペースや独立した相談室を整備し、療育後の個別のフィードバックに力を入れている。今年度6月の開設で、すでに利用待機の状態となっており、法人では、さらなる事業展開に向けて準備を開始している。

事業規模の拡大にともない、経営・管理職層を中心に法令遵守体制の強化を進めている

当法人は調布市及び武蔵野市に3か所の障害児多機能型事業所を経営し、うち1か所に相談支援事業所を併設している。事業規模の拡大にともない、法人代表者を中心に経営管理体制の整備に着手している。今年度より3か所の事業所を統括するマネージャー職を配置し、事業所間の情報共有を進めるとともに、法令遵守体制の強化を図っている。今後は法人内の意思決定プロセスの手順の確立と透明化を推進し、組織的なオペレーション体制への移行を実現することで、経営の安定性の強化を図る取り組みが期待される。

カテゴリー2

2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行

サブカテゴリー1(2-1)

事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6／6

評価項目1
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

評点(○○○○○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○ 非該当

サブカテゴリー2(2-2)

実践的な計画策定に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 0／5

評価項目1
事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している

評点(●●●)

評価	標準項目	
○ あり ◉ なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○ 非該当
○ あり ◉ なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○ 非該当
○ あり ◉ なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○ 非該当

評価項目2
着実な計画の実行に取り組んでいる

評点(●●)

評価	標準項目	
○ あり ◉ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○ 非該当
○ あり ◉ なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリー2の講評

事業所が目指していることの実現に向けた実践的な事業計画の策定が期待される

事業所では年間を通じて実施する行事の計画及び職員の研修計画が作成されているが、事業に関する具体的な計画書が策定されていない。運営の中で日々発生する課題については管理者を中心に検討がなされ課題解決に向けた方策が取られているが、今後は、事業所の目指すことの実現に向けて、事業所を取り巻く課題やリスクを総合的に抽出し、関係する職員が一丸となって取り組むことのできるように、中・長期の事業計画を策定し、その計画に基づいて進捗や達成度合いを評価し見直す事のできるよう、単年度計画を策定するなどの取り組みが期待される。

利用者のニーズの把握とそれに基づく改善の仕組みを整備する取り組みが期待される

年1回の利用者に対するアンケート調査を含む法定の自己評価はまだ実施されておらず、これからの取り組みとなる。今回の第三者評価の一環として実施した利用者調査の結果からは、当事業所のサービスに対する利用者の高い満足度が伺える。療育終了後に保護者に対する個別のフィードバックの時間を設け、要望等の把握に努めていることが背景にあるものと思われる。今後実施される自己評価の結果も踏まえ、利用者のニーズをさらなる改善につなげる仕組みの整備に向けた今後の取り組みが期待される。

地域の関係機関によるネットワークに参加し、情報の交換や収集に努めている

事業所では、市内の福祉作業所等連絡会、児童発達支援事業所連絡会、精神保健福祉ネットワーク連絡会など、関係機関による連絡会に参加し、情報交換を図るとともに、地域の福祉情報の収集に努めている。複数の事業所を併用する利用者も少なくなく、相談支援事業所を含む事業所間の情報共有は日頃より緊密に行われている。サービスの需給バランスが偏る中、療育の得意分野が異なる事業所間において、利用希望者に対し、他事業所の情報を紹介し合う関係も生まれている。

	カテゴリー3
3	経営における社会的責任

サブカテゴリー1(3-1)

社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2／2

評価項目1
社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる

評点(○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○ 非該当

サブカテゴリー2(3-2)

利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4／4

評価項目1
利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている

評点(○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○ 非該当

評価項目2
虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている

評点(○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○ 非該当

サブカテゴリー3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3／5

評価項目1
透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点(○●)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○ 非該当
○ あり ◉ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○ 非該当

評価項目2
地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点(○○●)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○ 非該当
○ あり ◉ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○ 非該当

	カテゴリー3の講評
	法人としてマネージャー職を配置するなど、法令遵守体制の強化を図っている 法人として法令遵守と関係者に対する説明責任を重視し、今年度より法人内3か所の事業所を統括するマネージャー職を配置して、組織体制の強化を図っている。また、法人のホームページにサービス利用に関する東京都からの通知等を都度アップし、保護者をはじめ関係機関に案内している。苦情解決体制に関しては、外部の相談窓口として、各自治体の関係部署の連絡先等を明示している。今後は苦情受付を担当する管理者に加え、法人のマネージャー職を苦情解決責任者に任命するなどの体制強化が期待される。 **虐待が疑われる事案への対応方法を明示し、関係者への周知を図る取り組みが期待される** 新型コロナウィルス感染拡大の長期化にともない、困難を抱える子育て家庭の増加・深刻化が進む中で、障害児通所支援事業所においても療育の側面から子育て家庭を支援するとともに、子どもに対する虐待のシグナルを早い段階でキャッチし、関係機関と連携しながら子どもの安全を確保する役割の重要性が高まっている。子どもが健やかに養育される権利を守るために、法令遵守の一環として、子どもに対する虐待が疑われる事案に関する対応のガイドラインを定め、職員、保護者及び関係機関に対する周知を図る取り組みを推進することが期待される。 **地元自治体との協定により、災害発生時の福祉避難所に指定されている** 当事業所は同一法人が経営する市内の障害児多機能型事業所に続いて地元自治体と協定を結び、災害時に発達障害児等の要援護者を受け入れる福祉避難所に指定された。そのための水や食糧品を備蓄するとともに、避難所開設の際は支援者を配置することになっている。今後は、利用児が通う保育所や認定こども園、幼稚園等との連携の強化をはじめ、地域の子育て家庭や関係機関に対して療育の専門機関としての機能を還元する取り組みについても検討を進めることが期待される。

	カテゴリー4
4	リスクマネジメント

サブカテゴリー1（4-1）

リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる　　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　4／5

評価項目1
事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる

評点（○○○○●）

評価	標準項目	
◉ あり　○ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク（事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など）を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○ 非該当
◉ あり　○ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○ 非該当
○ あり　◉ なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画（BCP）を策定している	○ 非該当
◉ あり　○ なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○ 非該当
◉ あり　○ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○ 非該当

サブカテゴリー2（4-2）

事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている　　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　4／4

評価項目1
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり　○ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員（実習生やボランティアを含む）が理解し遵守するための取り組みを行っている	○ 非該当
◉ あり　○ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○ 非該当
◉ あり　○ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○ 非該当
◉ あり　○ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○ 非該当

カテゴリー4の講評

想定されるリスクに対して、実践的な訓練等を交えたさらなる取り組みが期待される

療育中の地震や火災を想定した避難訓練を年1回、子どもも参加して実施している他、新型コロナウィルス感染防止対策として、通所時の検温や手指消毒、療育中の職員のマスク着用、療育終了時の器具の消毒等の対策を徹底し、保護者に周知している。また、感染症や不審者侵入対策に関するフローチャートマニュアルを作成し、備品や設備の整備等の対策を講じている。今後は利用者の特性にも配慮しながら、対策がより実践的なものとなるよう、汚物・嘔吐物処理の実演研修や警察等と連携した侵入者訓練等の実施など、さらなる取り組みの推進が期待される。

利用者の個人情報の使用目的等を明示した書面に沿って保護者に説明し、同意を得ている

利用開始にあたり、利用者の個人情報及び肖像権の使用目的や使用の条件等を明示した書面に沿って説明したうえで、保護者より同意のサインを得ている。利用者の個人情報に係る書類については鍵付きの書庫での保管やシュレッダーによる廃棄、電磁的記録については専用サーバーによる管理やアクセス権限の設定など適切な管理を心掛けている。

災害発生時の避難所運営の方法を含め、事業継続計画の作成と関係者への周知が望まれる

事業継続計画（BCP）の策定は法令遵守の観点からも検討が求められている。特に当事業所においては地元自治体との協定に基づき、災害時の二次避難所として指定を受けていることから、子どもの受け入れや避難所の運営方法について、行政や学校等とも協議のうえ、具体的なマニュアルを作成することが望まれる。その他、感染症のまん延による職員の出勤停止や大規模災害による建物使用困難等、通常業務の継続が困難な状況を想定して、事業継続可能な範囲や方法、体制等に関する計画を作成し、保護者や関係機関に対する周知を進めることが期待される。

	カテゴリー5
5	職員と組織の能力向上

サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	11／12

評価項目1
事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている

評点(○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○ 非該当

評価項目2
事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している

評点(○●)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○ 非該当
○ あり ◉ なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○ 非該当

評価項目3
事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる

評点(○○○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○ 非該当

評価項目4
職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる

評点(○○○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○ 非該当

サブカテゴリー2（5-2）		
組織力の向上に取り組んでいる	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	3／3

評価項目1
組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に
取り組んでいる

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり　〇 なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	〇 非該当
◉ あり　〇 なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	〇 非該当
◉ あり　〇 なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	〇 非該当

カテゴリー5の講評

常勤職員を中心に専門性の高い職員集団を形成している

専任の管理者が児童発達支援管理責任者を兼務している。職員採用では資格を保有する経験者を基本としており、常勤の児童指導員・保育士に加え、臨床心理士、作業療法士、言語聴覚士を配置して、専門性の高い職員集団を形成している。職務内容等に応じた任用等の要件を定め、それに対応した賃金体系を整備しているものの、職員育成の仕組みとの関連が必ずしも明確になっていない。今後は、キャリアパスを踏まえた個別の研修・育成計画を職員全体に展開するなど、職員の専門性と意欲のさらなる向上につなげる仕組みの整備に向けた検討が期待される。

各種の手当や休暇等の制度を設けて、職員の待遇改善や福利厚生の充実に取り組んでいる

営業日は年間を通じて週6.5日（日曜のみ隔週で月2回）、営業時間は平日13～19時、土曜9時半～17時半、日曜日9時～15時45分となっている。常勤職員は一日6時間、児童発達支援管理責任者は週4日を基本として、月ごとに勤務表を組んでいる。時間外労働は概ね月10時間以内となっている。連続5日休暇取得制度、誕生日有給休暇などを導入するとともに、常勤であっても副業も可としている。また、借り上げ社宅制度の導入や、土・日・祝日の勤務については手当てを支給するなど、職員の待遇改善や福利厚生の充実に取り組んでいる。

職員間の連携が図られ、チームワークに基づく組織的な療育が展開されている

今年度6月の開設に当たり、同一法人が経営する市内の障害児多機能型事業所から異動してきた職員を中心として、職員間の連携が図られ、チームワークに基づく組織的な療育が展開されている。今後も日々の活動や個別対応において試行錯誤を重ねながら、組織として療育のノウハウの蓄積を進めるとともに、外部研修や先進的な取り組みを行う他施設の見学等を通じて職員の専門性をさらに高めていく取り組みが期待される。そのためにも、療育に対するスーパービジョンの機能強化が重要であり、法人内外の資源の活用について検討を進めることが望まれる。

	カテゴリー7
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1（7-1）
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その1）

前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）

今年度6月の開設時より臨床心理士を常勤で配置している他、非常勤の作業療法士、言語聴覚士を配置し、専門性の高い職員集団を形成している。そのうえで、根拠に基づく質の高い療育を目指し、具体定な目標件数を掲げて、専門職（臨床心理士、作業療法士）による子どもの状態のアセスメントや評価に取り組むことを謳っている。

目標の設定と取り組み	◉ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） ◉ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ◉ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

全職員を対象に、臨床心理士によるアセスメントの導入説明会をおこなったうえで、子どもの行動観察に基づくアセスメントと評価を少なくとも1件は実施していることが実際のアセスメントシートから確認できた。同様に、作業療法士によるアセスメントも少なくとも1件は実施しているとの説明を受けたものの、その根拠は確認できていない。

評価項目2
事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その2）

前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）

当事業所は同一法人が経営する市内の障害児多機能型事業所における利用待機の状態を解消するために今年度の6月に開設したが、1年を経過しないうちに、すでに待機者が生じている。一日の利用定員を維持したまま事業の安定的な継続を図るには、児童発達支援と放課後等デイサービスの利用者のバランスが鍵となる。事業所では具体的な目標を設定し、来年度に向けてその比率に近づけるための調整を行うとしている。

目標の設定と取り組み	◉ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） ◉ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ◉ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

来年度に向けて、子どもの支援ニーズの評価と保護者の意向を確認するためのヒアリングを始めていることが確認できた。現段階において、事業所では放課後等デイサービスの利用者の対象年齢を引き下げる方向で検討を進めている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目
	サブカテゴリー1
1	サービス情報の提供　　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　4／4

評価項目1
子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している
評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○ 非該当

サブカテゴリー1の講評

体験利用のチラシの配布やホームページを通じて事業所の情報を広く案内している

A4サイズ両面カラー刷りの体験利用の案内チラシを作成し、関係機関に配布している。利用対象は受給者証を受けた幼児から中学生であり、保護者の目から見て発達が気になる子どもの具体的な行動や傾向等を例示するとともに、運動療法をメインとした「運動学習支援施設」であることを謳っている。裏面にはトランポリン等の器具が並んだ指導訓練室の写真を掲載し、実際のイメージを持てるようにしている。法人のホームページにも同様の情報を掲載している他、問い合わせボタンからメール送信画面にジャンプする構成にしている。

地元自治体等の関係機関が作成した冊子や情報サイトから事業所の情報が閲覧できる

地元自治体が市内の障害児・者通所施設を紹介する冊子を作成し、希望者に配布するとともに、ホームページからダウンロードできるようにしている。事業所ごとに1ページが割り当てられ、当事業所も所定の様式の中にサービスの特徴等を掲載している。また、市の子育て応援サイトの児童発達支援事業所の紹介ページにも当事業所より提供した情報が掲載されている。その他、公的な情報サイトでは、独立行政法人医療福祉機構（WAM）の障害福祉サービス等情報公表検索サイトから事業所の提供した情報が閲覧できる。

体験利用や見学の申し込みを随時受け付け、状況に応じて対応している

当事業所は、同一法人が経営する市内の障害児多機能型事業所の利用待機を解消するために今年度の6月より事業を開始した。療育は1時間単位で、1コマの定員を2～4名としている。体験利用や見学を随時受け付け、ニーズ等に応じて体験に入るクラスを決めている。すでに利用待機者が生じており、希望のクラスに空きが生じた時点で、子どもの状況等に応じて順に案内している。待機が長引くことが予想される場合は、サービス利用の機会損失を防止する観点から、利用希望者から問い合わせを受けた時点で、ニーズに沿って他事業所の情報を案内している。

2	サブカテゴリー2		
	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	7／7

評価項目1
サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、同意を得ている

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○ 非該当

評価項目2
サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○ 非該当

サブカテゴリー2の講評

利用開始前に運動療育プログラムを見学・体験し、アンケート等で意向を確認している

サービスを開始する前には、必ず運動療育プログラムを見学または体験することになっている。その際の子どもの様子や、保護者から聞き取った家族の情報等は、詳細に記録に残している。一方、保護者に対しては、「体験会アンケート用紙」で、事業所に求めることや、利用を希望する回数や時間、開始の時期等を確認し、クラス編成等の参考にしている。利用の開始が決まったら、子どもに関する情報の核となる「フェイスシート」への記入を保護者に求め、その情報に基づいて、児童発達支援管理責任者が保護者と面談している。

「フェイスシート」で子どもの課題や状態、希望等を確認し、支援計画に活かしている

利用開始前の面談では、予め記入された「フェイスシート」を用いて、子どもの支援に必要な個別の情報として、子どもの課題、興味関心やコミュニケーションの様子、人との関わりやルールの理解、運動の得手不得手等と、子どもと保護者の希望を確認し、必要に応じて詳しく聞き取るようにしている。加えて、重要事項説明書を読み合せるとともに、利用契約書、および、契約書別紙を用いて、サービスの内容や利用料金等を確認し、同意を得ている。初めてプログラムに参加する際は、指導員が子どもの横に付いて説明し、不安を軽減するようにしている。

サービス開始時の環境変化による影響等は、都度、保護者と情報を共有・確認している

サービス利用までの生活を踏まえた支援に関しては、利用開始前の面談で詳しく聞き取る他、毎回のプログラム終了時に、保護者にその日の子どもの様子を伝える際に、家庭や学校等での子どもの様子や変化等を聞き取り、支援に活かすようにしている。サービスの終了時には、主に、その子どもが利用している相談支援事業所を通して、支援の継続性に配慮するようにしている。

サブカテゴリー3

3 個別状況に応じた計画策定・記録

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 10／11

評価項目1
定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 子ども一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○ 非該当

評価項目2
子どもや保護者の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している

評点（○○○●）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 計画は、子どもや保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 計画を子どもや保護者にわかりやすく説明し、同意を得ている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直している	○ 非該当
○ あり ◉ なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している	○ 非該当

評価項目3
子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点（○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○ 非該当

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点（○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○ 非該当

サブカテゴリー3の講評

児童発達支援管理責任者が整理した課題等を基に、支援計画ミーティングを実施している

体験時の子どもの様子の記録と、子どもの心身の状況や生活状況等が記入された「フェイスシート」に基づいて行われる、保護者との面談で得た情報により、児童発達支援管理責任者が、子どもの発達の全体像を捉え、支援のニーズを抽出し、「支援計画ミーティング」シートに記入。それを基に指導員等を交えた支援計画ミーティングを行い、個別支援計画を作成している。そこには支援の課題、本人と保護者の療育の希望、短期・長期の支援計画、具体的な手立て等が記され、児童発達支援管理責任者が保護者に説明し、同意を得ている。

毎日、始業前後のスタッフミーティングで子どもの様子を共有し、モニタリングしている

日々の療育の内容や子どもの様子、保護者と共有した情報等は、子ども毎に「一言情報」シートに入力している。このシートには、本人の特性、個別支援計画の支援目標が明示され、毎回、各目標に対する達成度と、新たに設定が必要と思われる目標に、一定の記号を付けて明示している。毎日13時～14時には、その日出勤の職員全員でスタッフミーティングを行い、その日通所する子どもの前回の様子等について、「一言情報」を読み上げて共有し、18時～19時には振り返りのミーティングを行い、日々、子ども一人ひとりのモニタリングを実施している。

専門職による、科学的根拠に基づくアセスメントの指標作りに取り組んでいる

個別支援計画は通常6か月毎に更新している。更新の前には、「個別支援計画更新ヒアリングシート」を保護者に渡し、支援課題の変更希望や、子ども本人および保護者の希望、半年間で成長を感じた出来事、面談で聞きたいこと等を記入してもらってから、面談を実施している。現在、心理士と作業療法士により、それぞれの専門性に基づき、既存の指標を用いたアセスメントを、試験的に始めたところである。事業所は今後、科学的根拠に基づく独自のアセスメントの指標を作る意向である。また、計画を緊急に変更する場合のしくみも整備したい意向である。

	サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	6／6

評価項目1
子どものプライバシー保護を徹底している

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要が生じた場合には、子どもや保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 日常の支援の中で、子どものプライバシーに配慮した支援を行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○ 非該当

評価項目2
サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している（子どもが「ノー」と言える機会を設けている）	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 施設内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○ 非該当

サブカテゴリー5の講評

子どもの羞恥心に配慮して、声掛けの仕方を工夫する取り組みをおこなっている

発達段階の違いにより、同じ年代の子どもができていることの定着が十分に図られていないような場合は、子どもの羞恥心に配慮して、声掛けの仕方や言葉の選び方を工夫する取り組みをおこなっている。また、利用者から預かった個人情報及び肖像権について、使用の目的や条件等を保護者に書面にて明示し、同意の意思確認をおこなっている。子ども同士が同じ幼稚園や小学校等に通っているなど顔見知りの関係にある場合も想定されるため、保護者の気持ちを踏まえて、プライバシーの保護に努めている。

子どもの社会性を高めるために、チームスポーツを活動プログラムに取り入れている

週末の活動プログラムとして、隣接する市にある専用施設でフットサルをおこなっている。活動の目的は子どもがフットサルの技術を磨くことよりも、チームスポーツを通した感情の共有体験を積む中で、子ども同士が互いに仲間と認め合い、相手に自分から関わっていこうとする意識を高めることに置いている。今回の利用者調査では、通所を通じた子どもの社会性の定着に関して保護者から高い評価が示されており、職員間で取り組みの成果を分析しながら、組織的な支援のノウハウをさらに高めていくことが期待される。

	サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	3／5

評価項目1
手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点（○○●）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを定期的に点検・見直しをしている	○ 非該当
○ あり ◉ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○ 非該当

評価項目2
サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点（○●）

評価	標準項目	
○ あり ◉ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	○ 非該当

サブカテゴリー6の講評

具体的な事例をもとに、職員間の議論を通じて意識のすり合わせを図っている

新型コロナウィルス感染防止対策の手順を明示し、職員間で共有するとともに、利用者にも周知している。その他の衛生管理や虐待対応の手順等に関しては、主に東京都や厚生労働省が作成したものを印刷し、ファイルに綴じて事務所内に保管している。事業所では、事例をもとに子どもにとって必要のない手つなぎを身体拘束ととらえるべきか等の議論を通じて職員間の意識のすり合わせを図っている。今後、事業所の実情を踏まえたマニュアルの作成や改訂を進めるとともに、それらを基づく定期的な業務点検と継続的な見直しを図る仕組みの整備が期待される。

マネージャー職を中心に法人全体で共通の基盤となる業務マニュアルの整備が期待される

今年度より同一法人が経営する3か所の事業所を統括するマネージャー職を配置し、事業所間の情報共有を進めるとともに、法令遵守体制の強化を図っている。今後、関連の法令改正等の情報の他、各事業所における行政の実施検査の結果等を迅速に共有しながら、マネージャー職を中心に、法人全体で共通の基盤となる業務マニュアルの整備を進めていく取り組みの推進が期待される。

Ⅲ サービスの実施項目（カテゴリー6-4）

	サブカテゴリー4		
	サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	18／20

1 評価項目1

個別の支援計画に基づいて子ども一人ひとりの発達の状態に応じた支援を行っている

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 個別の支援計画に基づいた支援を行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 子どもの特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 関係機関（教育機関、福祉関係機関、医療機関等）と連携をとって、支援を行っている	○ 非該当

評価項目1の講評

子どもの課題や年齢に応じた小集団で、粗大運動を中心とした運動療育をおこなっている

当事業所は、運動療育を中心とした、未就学児対象の児童発達支援と、小学生対象の放課後等デイサービス事業をおこなっている。運動療育は、マット、跳び箱、鉄棒、サーキットトレーニング等、体幹を鍛える粗大運動を中心とし、運動面の苦手を段階的に改善していくことを目指している。加えて、学校や社会で必要となるあいさつや返事、マナー等のソーシャルスキルの習得も支援している。平日は毎日、14時～18時まで1時間単位で、年齢や課題を考慮して構成した2人～4人程度の小集団で、一人ひとりの課題に応じた療育を提供している。

子どもの特性に応じた方法やルールある運動を通して社会性が身に付くよう支援している

数人で協同してゲームを行なうことで、ルールや社会性を身に付けることを目的として、土日の午前中には、地域の会場を借りてフットサルを実施している。夏休みには、夏祭りの中で体を使ったプログラムを実施したり、冬休みには、ピンセットを使った微細運動による創作活動も行ったりして、集中力や創造力、手指の巧緻性や感覚等、発育・発達に必要な支援をおこなっている。コミュニケーションの手段等に付いては、保護者が記入する「フェイスシート」に項目を設け、契約時の面談で保護者に確認し、子どもの特性に応じた方法を工夫して対応している。

市の連絡会に出席し、関連団体と情報を共有している

市の福祉作業所等連絡会と児童発達支援事業所連絡会等に出席し、関連団体と情報交換や事例検討をおこなっている。保育・教育機関や医療機関等と直接連携を図ったことはないが、保護者の求めがあれば、連携する用意はある。年長児が小学校に進学する際には、保護者からの求めに応じて、就学支援シートへの記入に応じる予定である。それぞれの子どもが利用する相談支援事業所には、必要に応じて情報を提供しているが、事業所は今後、学校等と直接連携する際に用いる定型シートを作成する意向である。

2 評価項目2　　この評価項目は入力できません

【食事の支援がある事業所のみ】子どもが食事を楽しめるよう支援を行っている

評点()

評価	標準項目	
○ あり　○ なし	1. 食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている	○ 非該当
○ あり　○ なし	2. 子どもの状態やペースに合った食事となるよう、必要な支援(見守り、声かけ、食の形態や用具の工夫等)を行っている	○ 非該当
○ あり　○ なし	3. 子どもが安全に食事をとれるよう取り組みを行っている	○ 非該当
○ あり　○ なし	4. 食物アレルギーや疾患等については、医師の指示に従い、対応している	○ 非該当
○ あり　○ なし	5. 食についての関心を深めるための取り組みを行っている	○ 非該当
○ あり　○ なし	6. 子どもの状況をふまえ家庭での食事について助言を行っている	○ 非該当

評価項目2の講評　　この評価項目は入力できません

3 評価項目3
子ども一人ひとりの状況に応じて生活上で必要な支援を行っている

評点（○○○○●）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 身の回りのことは自分で行えるよう、必要な支援を行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 基本的な生活習慣や社会生活上のルール等 （あいさつ、マナー、交通ルール等）を身につけられるよう支援を行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 集団活動を取り入れるなど、子どもの心身の発達や社会性が育つよう支援を行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 一人ひとりの有する能力を活かせるよう個別のプログラムを実施している	○ 非該当
○ あり ◉ なし	5. 送迎は、子どもと保護者等の状況に応じて送迎方法を検討し、行っている	○ 非該当

評価項目3の講評

身の回りのことは自分行えるよう、絵カードや子どもに応じた声掛けで、支援している

玄関に入室の際の手順、①靴下を脱ぐ、②荷物を入れる、③上着を脱ぐ、等をイラストと文字で掲示し、子どもが自分行えるように支援している。退室の際の手順も、同様に支援している。カリキュラムの最初と最後に行う会は、あいさつやマナー等を身に付ける機会とするとともに、絵カード等を用いてプログラムを説明して、子どもが見通しを持って活動に参加できるように支援している。幼児クラスの会は、子どもの状況に応じて指導員が進行するが、小学生クラスでは、当番の子どもが会を進行し、皆の前で役割を果たす機会としている。

集団的個別活動と勝ち負けのある集団遊びを通して、運動面と情緒面の成長を促している

基本的な集団的個別活動においては、一人ひとりの課題や状態に合わせて、子どもは順番に運動課題に取り組んでいる。その際、順番を守ったり、メンバーを応援したりすることを通して、マナーやルールを身に付けられるよう支援している。一方、鬼ごっこやボール遊び等、勝ち負けのある集団遊びでは、感情のコントロールを身に付けられるよう支援している。職員は、子どもの気持ちを一番に考え、前向きな言葉を使い、出来ていることに注目して褒めるよう努めており、利用者調査の関連項目において、子ども本人および保護者から、高く評価されている。

送迎は保護者の責任で行われている

送迎は保護者の責任で行うこととし、事業所はおこなっていない。原則として子どもは、保護者に伴われて通所することになっているが、小学校中学年以上で徒歩圏内に住む子どもの中には、一人で来所し、迎えに来た保護者と一緒に帰る子どももいる。その際は、事前にそのことを保護者との間で確認している。当法人は、スタッフ全員が運動療育に注力するため、今後も送迎の予定はない。

4 評価項目4
子どもの健康を維持するための支援を行っている

評点（○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 子どもの健康状態について、保護者や医療機関等から必要な情報を収集している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 子どもの状態に応じた健康管理を行い、体調変化に速やかに対応できる体制を整えている	○ 非該当

評価項目4の講評

「フェイスシート」で基本的な健康情報を共有し、必要に応じて詳細を聞き取っている

子どもの健康状態に付いては、平熱、アレルギーの有無、体調が悪いときのサイン等について「フェイスシート」への記入を求め、契約時の面談で、必要に応じて詳細を確認している。緊急時の対応方法については、重要事項説明書において、医療機関名や主治医、および、緊急連絡先を確認している。身体的な課題のある子どもに付いては、運動の制限に付いて保護者が主治医に確認した情報を共有している。感染症予防のための検温、手洗い、うがいの実施は、必要に応じて職員が子どもの横に付いて、個別に支援している。

子どもの特性に応じて、無理のない範囲での感染症予防策を講じている

新型コロナウィルス感染症予防のため、職員は皆マスクを着用している。子どもに付いては、小学生は学校で着用を求められているが、保育園等では着用を求めていない所もあることから、未就学児には強要していない。会場の換気や消毒は定期的に行い、手洗い、うがいに関しては、感覚等が過敏な子どもの場合は、無理のない範囲で行えるよう支援している。

5 評価項目5
子どもの主体性を尊重し、施設での生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている

評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 日常生活の支援は子どもの主体性を尊重して行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 子どもの状況や希望に沿って、多様な体験ができるようにしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4.【放課後等デイサービス】 子どもの状況に応じて利用日や利用時間を設定している	○ 非該当

評価項目5の講評

少し頑張ればできるプログラムを設定し、子どものやる気を引き出している

運動療育は、指導員が予め準備したプログラムで実施されるが、子どもが主体的に取り組めるよう、職員は皆笑顔で楽しい雰囲気を醸し出し、運動の方法等は、子どもが理解しやすいよう、簡潔・明瞭に説明している。プログラムは、子どもの課題やその日の子どもの状態に合わせて進行し、うまくできた時には、本人に伝わる方法で褒め、うまくいかなかった時は、悔しい気持ちに寄り添い、勇気づけている。子ども一人ひとりの課題に応じて、少し頑張ればできるプログラムを設定することで、達成感を味わえるように支援している。

明るく、楽しく、安心して運動できる空間を提供している

療育を行う部屋は、数人の子どもが動き回っても余裕のある広さで、活動に必要な物だけを整頓して壁際に置き、子どもが安心して活動に集中できる環境を作っている。子どもが勝手に持ち出すと危険な運動具は、別室で管理している。体への負担を考慮して柔らかい床材を使用し、明るく安全な空間となっている。利用者アンケートにおいては、「職員があなたの気持ちを大切にしてくれていると思うか」と言う問いに対し、未就学児クラスの保護者は9割以上、小学生クラスの本人および保護者は、全員が「はい」と答えている。職員への信頼度の高さが窺える。

1時間毎の入れ替え制で、児童発達支援と放課後等デイサービスを実施している

平日の稼働時間は14時～18時で、1時間毎の入れ替え制である。最初の2～3クラスが未就学児対象の児童発達支援、残りの1～2クラスが小学生対象の放課後等デイサービスである。土・日の午前中はフットサル、午後は運動療育で、それぞれ未就学児と小学生のクラスを設けている。各クラスは、子どもの年齢や課題、家庭の都合等を考慮して、1日4クラスで定員の10人になるよう構成している。開設してまだ半年程度の事業所であるが、利用希望者が多く、待機者名簿が作成されている。

6 評価項目6
家族との交流・連携を図り支援を行っている

評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 子どものサービス提供時の様子や家庭での普段の様子を家族と情報交換し、支援に活かしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 家族の意見や要望を活かした支援を行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 家族の状況に配慮し、相談対応や支援を行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 子どもや家族に合った療育方法等について助言している	○ 非該当

評価項目6の講評

活動終了後すぐに、子どもの活動の様子を保護者と共有している

子どもが活動する様子は、壁面に設けられた窓からブラインド越しに見ることができる。子どもを送ってきた保護者は、約1時間、子どもの様子を見ながら、保護者同士会話を弾ませている。活動が終盤に差し掛かると、児童発達支援管理責任者が活動のサポートに入り、活動にサブで入っている指導員が、活動を見守りながら、本日の活動の様子をサービス提供記録に記入し、保護者と共有している。活動終了後すぐに、次のクラスの子どもが入ってくるので、共有の時間は限られるが、できるだけ丁寧に対応するようにしている。

保護者の様子や求めに応じて、児童発達支援管理責任者が相談に応じている

保護者との情報共有の場で、保護者が、悩みを相談したい意向を示したり、苦情につながるような発言があった場合は、必要に応じて児童発達支援管理責任者が相談に応じるようにしている。未就学児クラスの利用者アンケートにおいては、「家族への精神的なサポートは役に立っていると思うか」という問いに対して、「はい」と答えた保護者は半数に留まっており、家族支援に対する満足度は、他の項目に比べて低い。今後は、子どもの活動の様子の共有のみならず、家族支援の視点での保護者への声掛け、関わりについても検討することが望まれる。

7 評価項目7

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点（○●）・非該当1

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 地域の情報を収集し、子どもの状況に応じて提供している	○ 非該当
○ あり ◉ なし	2. 必要に応じて、子どもが地域の資源を利用し、多様な体験や交流ができるよう支援を行っている	○ 非該当
○ あり ○ なし	3.【児童発達支援センター】 地域全体の在宅障害児や関係機関等を対象に、施設・設備や人材・プログラムを有効に活用した支援を実施している	◉ 非該当

評価項目7の講評

運動療育に特化した事業所の強みを活かし、地域に貢献することが望まれる

市の福祉作業所等連絡会と児童発達支援事業所連絡会等に出席して、関連団体と情報交換することで、地域の情報を収集している。同業他社や病院に関する情報等は、必要に応じて保護者等に提供している。週末のフットサルは近隣の施設を利用しているが、地域との交流等はおこなっていない。今後、コロナ禍が終息した折には、運動療育に特化した事業所の強みを活かした地域貢献が望まれる。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-3-4	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している
タイトル①	活動前後のミーティングで、子ども一人ひとりの状況等を職員間で共有し、支援している	
内容①	子どもの基本的な情報、および発達の全体像は、個別のフェイスシートにまとめられ、内容に変更があった際は、その都度赤字で記入している。1日の活動終了後には、子ども一人ひとりについて職員間で振り返りを行い、個別の支援目標に対して出来たこと、気付いたことを、その場で「子ども一言情報」シートに詳細に入力している。翌週の活動前の職員ミーティングでは、このシートを読み上げ、必要に応じて前週に対応した職員が補足説明して、子ども一人ひとりの状態や目標達成度等を共有したうえで、活動を開始し、個別に支援している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-1	個別の支援計画に基づいて子ども一人ひとりの発達の状態に応じた支援を行っている
タイトル②	子どもの発達課題を踏まえ、子どものできることに焦点を当てた支援を展開している	
内容②	発達性協調運動障害のある子どもは、極端な不器用さから劣等感を抱え込む場合もあり、事業所では子どものできることに焦点を当てて、それを少しずつ増やしていきながら子どもの自信を高めていく支援を展開している。運動療法をメインとした「運動学習支援施設」であることを謳いながらも、支援の基本は子ども一人ひとりの発達課題を踏まえた個別の療育であることを職員ミーティング等で確認している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-1-1	事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている
タイトル③	常勤の臨床心理士を配置し、心理的側面からの独自のアセスメントに力を発揮している	
内容③	事業所では、今年度の報酬改定を見据え、6月の開設時より臨床心理士を常勤で採用している。法人が目指す運動療法をより効果的に展開するための人材方針に基づいた採用である。臨床心理士は、運動機能と発達段階のアセスメントに加えて、心理的側面を取り入れた独自のアセスメントや評価の方法を試行錯誤しながら段階的に取り入れている。法人内の他事業所にも臨床心理士が配属されており、各事業所での取り組みや課題、悩み等を相互に共有する機会を設けることで、専門職同士の学びの効果と意欲の向上につなげている。	

《事業所名：KIZUNA柴崎駅前》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	手厚い人員体制のもとで子どもの運動機能や社会性を高めることを目指した短時間枠の療育サービスを提供し、利用者の満足度を高めている
	内容	遊びの要素を取り入れた運動療法を通じて、子どもの運動機能や社会性を高め、一人一人の自信と可能性を広げることを目指している。一日10名の利用定員を設定し、1コマ1時間の単位で子どもの年齢や支援ニーズに応じた2～4名のクラスを編成している。送迎や食事の提供はおこなっておらず、療育に人的資源を集中することで手厚い人員体制を実現している。保護者が療育の様子を室外からブラインド越しに座って観察できるスペースや独立した相談室を整備し、療育後の個別のフィードバックに力を入れており、保護者の満足度を高めている。
2	タイトル	子どもが安心して伸び伸びと体を動かせる療育環境を整えている。
	内容	療育を行う部屋は、数人の子どもが動き回っても余裕のある広さを備えている。子どもの運動機能を引き出すためのカラフルな遊具や器具を備え、壁際の専用スペースに収納してあり、使用時に必要な物だけを職員が取り出して並べている。床は体への負担を考慮して柔らかい木材を使用し、明るく安全な空間となっている。また、職員は笑顔で楽しい雰囲気をつくり、子どもがうまくできた時には本人に伝わる方法で褒め、うまくいかなかった時は、悔しい気持ちに寄り添い、勇気づけている。子どもたちが安心して伸び伸びと体を動かせるよう、環境を整えている。
3	タイトル	常勤職員を中心に専門性の高い職員集団を形成するとともに、職員のチームワークとモチベーションを高める取り組みをおこなっている
	内容	専任の管理者兼児童発達支援管理責任者のもと、常勤の児童指導員・保育士・臨床心理士の他、非常勤の作業療法士、言語聴覚士を配置して、専門性の高い職員集団を形成している。日々のミーティングで子ども一人ひとりの状況や保護者とのやり取りを職員間で情報共有するとともに、療育の向上のためのコミュニケーションを深める環境を整えている。営業日は年間を通じて週6.5日とする中、連続休暇制度や土日・祝日の勤務については手当てを支給するなど、待遇改善や福利厚生の充実にも取り組んでおり、職員のモチベーションを高めている。

No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	法人のマネージャー職を中心に、療育のスーパービジョンの体制と苦情解決体制のさらなる強化を図ることが期待される
	内容	今年度より法人内3か所の事業所を統括するマネージャー職が配置され、法人全体の法令遵守体制の強化を図っている。事業所では、ケースカンファレンスや職員研修等を通じて療育のノウハウの蓄積や専門性のさらなる向上が望まれる中、今後はマネージャー職を中心とするスーパービジョンの取り組みが期待される。また、苦情解決体制における組織内部の苦情窓口として、現在は管理者のみが位置づけられているが、今後はマネージャー職を苦情解決責任者に任命するなど、さらなる体制の強化が期待される。
2	タイトル	中長期及び短期の事業計画を作成する取り組みを通じて、法人の意思決定プロセスの手順の確立と透明化を推進することが期待される
	内容	2017年11月に設立した法人は、その後1～2年ごとに障害児多機能型事業所を着実に1か所ずつ増やし、2021年6月に開設した当事業所で3か所目となる。法人の目指すビジョンの実現に向け、今後は保有する経営資源を最適化する方法や、必要な資源の調達方法・時期等を中長期及び短期の視点で計画に落とし込み、視覚化して、関係者の間で共有する取り組みが求められる。その過程で、法人内の意思決定プロセスの手順の確立と透明化を推進し、組織的なオペレーション体制への移行を実現することで、経営の安定性の強化を図ることが期待される。
3	タイトル	地元自治体との協定により福祉避難所に指定されていることから、災害発生時の対応マニュアルや事業継続計画の作成を進めることが望まれる
	内容	当事業所は地元自治体との協定に基づき、災害時に発達障害等のある子どもの二次避難所として指定を受けている。避難所の管理運営は市の責任において行い、事業所はそれに協力することが協定に謳われている。今後、行政や学校等とも協議のうえ、必要に応じて具体的な運営マニュアルの作成やそれに沿った訓練等の実施に向けた検討を進めることが期待される。また、感染症や大規模災害等の発生により、通常業務の継続が困難な状況を想定して、継続可能な範囲や方法、体制等に関する計画を作成のうえ、保護者や関係機関に対する周知を図ることが望まれる。